

平成 22 年度社会福祉法人佐渡市社会福祉協議会事業報告

はじめに

全国的な景気の低迷と少子高齢化が進む中、佐渡市の状況は人口の減少や高齢化が急速に進展し家族及び集落機能の低下が深刻化しています。また、地域の人々の結びつきや家族の絆の希薄化をうかがわせる事件として、高齢者の所在不明が社会問題となり、地域のつながりがクローズアップされました。

このような情勢から、多様化するニーズに柔軟な対応を心がけながら、地域の福祉力を高め、誰もが安心して暮らせることができる福祉のまちづくりを目指して各種事業に取り組んでまいりました。

主な取り組みとしては、地域住民が互いに支え合い助け合う見守り活動や、地域福祉会の活動支援、いきいきサロン、地域の茶の間等を推進してまいりました。また、有償のボランティアを派遣し、安否確認や話し相手、ゴミ出し等の暮らしを支援するサービス、生活支援ボランティア派遣事業に新たに組み込みました。

ボランティアセンターでは、地域の支え合いや災害時のボランティア研修会を開催し、地域ボランティアの発掘と育成に努めました。また、ボランティアステーションにおいてはボランティア活動を深める取り組みとして、他地区とのボランティア交流会を実施しました。

本年 4 月には市の施設であった複合福祉施設、老人福祉センター及び温泉保養施設（地域交流センター）の譲渡を受け、自主自立の経営転換に努めてきたところです。特に地域交流センターに於いては、利用料の値上げや営業時間の短縮、サービスの向上による利用者の確保等により収益の確保に努めてまいりました。

介護保険事業については、特別養護老人ホーム等の施設サービスに利用者が流れる傾向があり、利用者の減少の要因となっていることは否めません。

そのような状況において収益を確保するに為、毎月の経営会議での P・D・C・A サイクルによる経営の見直しや、介護技術等の職員研修に取り組んでまいりました。

認知症高齢者の方々や、そのご家族の介護負担の軽減と、事業経営の収益を地域に還元する理念のもとに認知症対応型共同生活介護「グループホームまの」を建設しました。

グループホームでは介護サービスの提供以外に、多目的ホールを備え、入居者のご家族や地域の方との交流の場となるように配慮いたしており、地域に開かれた施設として運営いたします。

当協議会は公共性、公益性を併せ持つ法人として、地域で果たすべき役割を考え、地域住民と協働し住民が安心して暮らせる地域づくりを目指して事業展開をしてまいります。